

＝ボーイスカウト日本連盟傷害共済制度から学ぶ事故の特徴・19年度版＝

日本ボーイスカウト奈良県連盟
健康安全委員会
委員長 岩井

状況

この度、ボーイスカウト日本連盟傷害共済に保険請求されたデータを基に、その特徴を分析した。今回特に注目されたのは指導者の受傷率であり、この件につき報告する。算出基礎は平成17年度および18年度の2年度分のデータで、総額は830件である。

保険請求総数830件のうち、指導者の受傷は2割を占め171件(20.6%)であった。また全830件のうち、骨折や捻挫、脱臼、韌帯損傷、肉離れなど運動器系の外傷は354件(42.7%)で、その中で指導者の割合は3割の103件(29.1%)であった。さらにその指導者103件のうち、骨折は半数の52件で50.5%である。なお、指導者各年代別の受傷率は、10代1件、20代8件、30代22件、40代70件、50代43件、60代18件、70代4件、不明5件である。

【隊員・指導者別受傷件数】

	隊員	指導者	合計
a) 17年度	365	93	458
b) 18年度	294	78	372
a+b) 総受傷件数	659	171	830
比率	79.4%	20.6%	100%

【総数830件に占める運動器系外傷件数】

	隊員	指導者	合計
a) 運動器系外傷件数	251	103	354
比率	70.9%	29.1%	100%
b) その他のケガ*	408	68	476
a+b) 総数	659	171	830

*打撲、欠損、火傷、切創、刺傷、熱湯傷、吹傷、虫刺傷など

【指導者の運動器系外傷103件に占める骨折件数】

	骨折	骨折以外※	合計
骨折件数	52	51	103
比率	50.5%	49.5%	100%

※捻挫、脱臼、韌帯損傷、頸椎損傷、肉離れなど

【指導者年代別受傷件数】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
件数(件)	1	8	22	70	43	13	4	5	171
比率(%)	0.6	4.7	12.9	40.9	25.1	10.5	2.3	2.9	100

【参考：2007年度ボーイ隊年代別指導者比率(全国)】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
人数(人)	2	348	198	844	665	125	11	2,493
比率(%)	0.1	14.0	20.0	33.9	26.7	5.0	0.4	100

考察

これらのデータより、指導者の受傷が2割を占め、またその中には骨折や捻挫、脱臼、肉離れなどが3割を占め、特に骨折が半数となっていることがわかる。また、受傷年齢は40歳代と50歳代で計68%である。これは指導者の年齢構成(ボーイ隊を例に取ると、同年代で60.6%)に比例してこのような比率になっているものと推測されるが、特記すべきは運動器系のケガの中で骨折が半数を占めることで、あまりにも突出した数字と思われる。平常の運動不足のために反動的な能力や筋力が低下し、また運動環境時代の感覚でその時と同様の行動をとってしまい、不慮のケガをきたし「昔はこんなことくらいでは・・・」と後悔された方も多いのではないだろうか。

活動開始前に全員で十分に準備体操やストレッチを行うことはもちろんの事、自らの体力や運動能力の限界を理解し、自分の年齢に応じた関わり方を考慮するのも一計と思われる。

現状では指導者数の減少のたひ、あるいは高齢化のたひ、そして隊員たちと一緒に行動し活動する事が指導者の醍醐味でもあり、楽しくもあるため、思わずやっつけてしまう。どうしてもやらざるを得ない、という状況にあることは容易に想像しえることではあるが、今一度、一人でも受傷者が減るように、少しでもケガの程度が小さく済むように対策を考えていただきたい。

